

生協入門

2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、私たちの暮らしは一変しました。感染症の拡大防止のため、ときに日常の買物すらままならないという、それまでの日常からは想像しがたい状況が現れました。そうした中で、にわかに活況を呈したのが食品宅配市場であり、地域生協の利用・加入も大きく伸長しました。

しかし、生協の加入と利用の伸びにあわせて、生協に対する理解も広がったかという点、必ずしもそうとはいえません。急激な環境変化から、生協の宅配に消費者の注目と関心が集まりましたが、それは家まで商品を届けてくれる「便利な仕組み」への注目でした。生協の事業が伸びた今こそ、そうした事業の先にある、生協の独自性や、そもそも協同組合とは何か、という点について、社会に発信することで、生協についての社会的な理解を深める必要があるのではないのでしょうか。

生協に限らず、社会的な理解を広げるためには、広報活動や教育活動が必要です。そして、その際には学ぶためのテキストが不可欠です。生協についての入門的なテキストは、これまでも研究者や実践家による書籍がいくつか出版されています。また、生協の全国連帯組織である日本生活協同組合連合会が、主に生協職員に向けた通信教育のテキストを発行しています。ただ、前者はその分量や取り上げるテーマから、生協を学ぶはじめの一歩としては若干ハードルが高かったのも事実です。後者も生協職員に読者が絞り込まれており、気軽に手に取ることができませんでした。

こうした問題意識も踏まえて、今回『くらしと協同』では、「生協入門」と題して、より気軽に生協について学ぶことのできる特集を企画しました。生協に関わる14の項目を取り上げ、それぞれ研究者による解説と、実践家による報告を組み合わせています。通して読むことで、生協の全体像をつかむこともできますし、手早く知りたい論点をピックアップして読むこともできます。また、最後には、生協について、より理解を深めるためのブックガイドも設けました。特集を読み終えた後は、そうした文献にも手を伸ばしてもらえればと思います。

今回の特集が、各生協での協同組合や生協について学ぶための教材のひとつ、あるいはきっかけとして役立つことができれば幸いです。

(加賀美 太記)